

アニヤ プロフィール：

東京生まれ、NHK 交響楽団のチェロリストだった祖父とクラシック歌曲を学んだ母親の影響で子供の頃から幅広い種類の音楽の中で育つ。4歳の時にヤマハ音楽教室でオルガンを習い始め、6歳からクラシックのピアノレッスンを始める。中学、高校に進む頃には吹奏楽部、マンドリンクラブなどで管楽器やポピュラーミュージックに慣れ親しみ、ピアノでもポピュラーやポップス等を演奏、弾き語り等もする様になっていた。国立音大ではピアノの調律技術を専攻したが、在学中のアルバイトでピアノの弾き語り演奏を始める。

卒業直前に米国サンフランシスコのナイトクラブの歌手のオーディションを受け、単位を終了後、卒業式を待たずに渡米することになった。一旦帰国した後、1年後にはロサンゼルスに再び渡米、英語学校に数ヶ月通った後、ロサンゼルス郊外にあったディック・グローブ・ミュージック・スクールに入学する。在学中にそれまでポップス中心だった演奏活動が、次第にジャズに移行することになり、同校でヴォーカルクラスを教えていた歌手、スー・レイニーの演奏にも深い感銘を受け、以後ジャズ・ヴォーカリストとしての影響を長期に渡って受ける。

ディック・グローブ・スクール・オブ・ミュージック在学中に、作曲家、編曲家のタク・シンドーと出会いシンドー率いるビックバンド、タク・シンドー・スイング・バンドにリード・シンガーとして加わることになる。その後、数々のジャム・セッションやイベント等での経験を経て、演奏の場も次第にジャズ・コミュニティーに広がって行った。

1990年代はロサンゼルス近郊のジャズ・ソサエティの中核をなしていたチャドネーズ、ルナリア、ワールド・ステージ等のクラブを始め、ジャズラジオ局KLONのイベントや、パサデナ・ジャズフェスティバルなどにピアノトリオやスマールコンボなどのグループで定期的に出演する様になる。

2007年、アルバム「イン・アザー・ワーズ (In Other Words)」を発表、バックにはナタリー・コール、シャーリー・ホーンとのレコーディングで2度のグラミー受賞をし、現在はダイアナ・クラールのアレンジャー、ディレクターとしても活躍中の、アラン・ブロードベント、もとウェザー・リポートのドラマーで、数々の受賞レコーディングに参加しているピーター・アースキン、ベースには

2008年7月に若くして突然亡くなったデイブ・カーペンターを迎え、ドイツ出身のギタリストでもあるプロデューサー、ダーク・ケイ、マスタリングには数えきれないグラミー受賞レコーディングを手がけたバーニー・グランドマンが参加した。

このアルバムには)」、「フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン (Fly Me to the Moon)」、「ザ・ルック・オブ・ラブ (The Look of Love)」、「ラバー・マン (Lover Man)」、「ブレーム・イット・オン・マイ・ユース (Blame It on My Youth)」、「あなたの近くに (The Nearness of You)」、「プレリュード・トゥー・ア・キス (Prelude to a Kiss)」、「エブリタイム・ウィ・セイ・グッバイ (Everytime We Say goodbye)」、「ネヴァ・レット・ミー・ゴー (Never Let Me Go)」のバラードを中心とした8曲が収められている。